

2015 年度 人権 NPO 協働助成事業報告書

人権 NPO 協働助成事業は、多様化・複層化した人権問題の解決に向けて、人権 NPO 等（人権問題解決に取り組む NPO や団体等）へ支援するとともに協働で取り組むことにより、人権問題の解決に向けた取り組みのネットワークづくりを進めています。

新たな人権問題など様々な人権問題の解決に取り組む人権 NPO 等による 4 つの事業に対して助成を行い、この取り組みを「2015 年度人権 NPO 協働助成事業報告書」として取りまとめました。

これらの取り組みを知っていただくことで、様々な人権問題の解決に向けた取り組みが広がることを願っています。

-もくじ-

- ① ブラジルにルーツをもつこどもの居場所づくり事業 1
団体名：プロジェクトコンストルイル
- ② マイノリティーアートフェスティバル～マイノリティーがアートに出会うとき～ 3
団体名：マイノリティーアートプロジェクト
- ③ 「よっしゃ！ほっとかへんで」～地域の子ども個別支援準備事業～ 5
団体名：NPO 法人西淀川子どもセンター
- ④ 三輪自転車を活用したコミュニティ活性化事業 7
団体名：特定非営利活動法人三島コミュニティ・アクションネットワーク

一般財団法人 大阪府人権協会

〒552-0001

大阪市港区波除 4-1-37 HRCビル (AIAI おおさか) 8階

TEL 06-6581-8613 FAX 06-6581-8614

<http://www.jinken-osaka.jp/>

info@jinken-osaka.jp

報告書に掲載している事業についてのお問い合わせは、上記までお願いします。

2015年度人権NPO協働助成金 事業活動報告書

事業名	ブラジルにルーツをもつこどもの居場所づくり事業
団体名	プロジェクトコンストルイル




日時・期間	毎週金曜日夜、土曜日午前 など
場所	石津川の教室など
規模・人数	こども 20名

解決したい課題	<p>【自尊感情が低い、孤立感】 大阪府内のブラジル人は点在して暮らしており、学校に一人だけという子どももいます。私たちの教室に通うブラジルにルーツがある子どもたちは、学校でのいじめや差別的な言動だけでなく、日本人の子どもと違和感を持ちながら、通学しているという実態があります。保護者は、同じように「仕事と家庭」の範囲で生活をしており、地域社会から孤立しています。</p> <p>【居場所の存続の危機】 2008年、リーマンショック以降、ブラジルへの帰国する人が増加しました。日系ブラジル人女性2人で立ち上げたこの教室も大きく影響を受け、こどもの減少や学習費用が出せない家庭もいて、この教室（こどもの居場所）の存続も大変になっています。</p> <p>【高校への進学問題】 子どもたちは日本の学校に通い、日本語はしゃべれますが、読み書きの習得度には疑問があります。家へ帰っても家族との会話はポルトガル語で、テレビなどの文化もブラジルのものです。 学校の授業では高学年に進めば進むほど、「先生が何を言っているかわからない」「黒板の板書がノートに書き終わらないうちに消されてしまう」という子どもたちの実態です。特にこの教室には、中学2年生が3名おり、ようやく高校進学を決意してくれましたが、来年の高校進学の壁はまだ高いと思われます。</p>
実施内容	<p>週2回の母語教室だけでなく、ブラジルの文化や日系ブラジル人の歴史を学ぶ機会を増やします。そのために他県のブラジル人学校の子どもの交流、ブラジルに帰国した仲間たちや海外のブラジルにルーツを持つ仲間たちと手紙やスカイプなどを活用した交流をおこないました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週1回と定期テスト対策、受験対策の勉強会を開催しました。 ・社会見学やファミリーキャンプなどのイベントを保護者とともに行き組んでいきます。 ・フェスタジュニーナ、発表会など保護者とともに行き組むことで、子どもたちが保護者の思いを理解することができました。また、保護者もますます、教室への関心と貢献に力を入れだしました。

<p>成果と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・海外の同じ立場の子どもたちとの交流で、世界に同胞がいることが確認でき、自信を持つことができました。 ・発表会では、自分の得意なやりたい内容を自ら選び、練習を繰り返しました。教室に通う曜日の違うこどもたちが、一緒になり、ダンスの内容などを討論し、やり遂げることができました。がんばって「できる」ことを実感しました。 ・キャンプでは、保護者と一緒にテントを組んだり、食事を用意したり、学年など抜きにして、いままで輪に入りにくかった子も、子どもたちだけでトランプなどのゲームを行い、仲間意識が向上しました。 <p><子どもたちの感想を一部紹介します。></p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェスタジュニーナでは、お父さんとお母さんが肉を焼いて自分はそのそばで友達と店番をした。家族として絆が深まった、愛情をたくさん感じた。家族とも話すようになったきがする。 ・みんなが一緒にご飯を食べたこと。みんなと一緒にUNOで遊んだり花火をして、みんなともっと友達になった気分。 ・キャンプはいい思い出。子どもと大人が力合わせたからうまくいった。 ・同じ学校のなかでは、会っても話さない。この教室だからお互いに話せることができる。ブラジルが大好きだから、ブラジルのことを勉強してうれしかった。 ・保護者の教室へのかかわりが多くなり、それぞれの地域でも活動するようになりました。泉南市に暮らす保護者は、地元のNPOの国際交流のイベントで、スケジュールの関与、ブラジルから招待したミュージシャンの通訳など参加した。またこどもも通訳をおこなった。 ・中学3年生のうち、ひとは希望する高校へ進学、ひとは希望する高校に成績が届かなかったが、何とか高校生に。最後のひとは、途中で教室に来なくなり、成績も落ち、公立高校の受験に失敗。定時制に通うか、1年後に再挑戦するか悩んでいます。取り組みが遅すぎたのと、学習環境の課題が大きな要因とおもわれます。府人権協会の紹介で、大学生が参加しました。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室のある地域との交流を図ることができませんでした。 ・教室への保護者の関わりが増えましたが、互いの得意分野を活かすことが課題。 ・子どもたちの学習環境がよくないこと、保護者の学習への認識が低いことに、気がつくのが遅く、対応が遅くなりました。
<p>今後の目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教室がNPO法人運営のカフェに移転したことで、他団体との協働をおこない、活動範囲、幅を広げていきます。 ・保護者の役割分担を行い、教室の運営を自らのものにしていきます。 ・中学生の保護者会を重ね、学習環境の必要性を訴えていきます。

お問い合わせ先：プロジェクトコンストルイル スタッフ山田

2015年度人権NPO協働助成金 事業活動報告書

事業名	マイノリティーアートフェスティバル ～マイノリティーがアートに出会うとき～	
団体名	マイノリティーアートプロジェクトチーム	
日時・期間	プロジェクト実施期間 2015/3/1～2016/2/29 マイノリティーアートフェスティバル 2015/11/21, 22, 23	
場所	富田林人権文化センター周辺	
規模・人数	100人（フェスティバル3日間の延べ人数）	
解決したい課題	被差別部落出身者、ひきこもり、セクシュアルマイノリティ、外国にルーツがある人、障がい者などマイノリティ同士が相互理解する場が少ない。	
実施内容	<p>■プレイベントとして</p> <p>2015/4/5 庵のひきこもりフューチャーセッション（東京）に参加</p> <p>2015/4/11 保護者会開催＝あるがママの会として、現在第3金曜日に例会として定着</p> <p>2015/4/26 ネットバンドのライブ『それでも生きてます』（プラダーウィリー症候群の美馬知里さんのライブと美馬由紀子さん（知里さんのお母さん）の講演</p> <p>2015/5/23, 30 ひきこもり大学 人権教育啓発学科 河内水平社の歴史と被差別部落のフィールドワーク （2015/5/22 拠点となる居場所を富田林駅から3分のところに見つけ、契約する）</p> <p>2015/6/2 ひきこもり大学 LGBT 講座@大阪芸大 LGBT サークル</p> <p>2015/6/7 居場所作りプロジェクト始動①</p> <p>2015/6/ Ready For クラウドファンディング始動→359000円集まる 車椅子で入れるトイレ兼シャワールーム作りの一部にあてる</p> <p>2015/6/28 拠点居場所作りプロジェクト② 以後DIYはオープンまで継続的に実践</p> <p>2015/7/5 ひきこもり大学性教育学部『心と体を大切にするための性教育』① 講師：徳永桂子さん</p> <p>2015/8/1 居場所カフェプレオープン 交流会を兼ねたオープニングパーティーとPL花火大会の鑑賞会</p> <p>2015/9/5 居場所カフェ1F床磨き人海戦術</p> <p>2016/9/22 ひきこもり大学 性教育学部『心と体を大切にするための性教育』② 講師：徳永桂子さん</p> <p>2016/10/2 居場所カフェがMAP Cafeと命名されオープンする オープニングパーティーは、50人ほどのひきこもり当事者、友人知人ライブパフォーマンスを交え華々しく開催。</p> <p>2015/10/23 ひきこもり大学 コミュニケーション学部 境界線講座 講師：徳永桂子さん</p> <p>2015/10/25 ひきこもり大学 頑張れない学部挫折学科 講師：プーさん、ゆ～るさん</p>	

	<p>—毎週月曜日にファスティバルスタッフ会議— 2015/11/21, 22, 23 マイノリティーアートフェスティバル 2015/11/30 最後のスタッフ会議 -ふりかえり-</p> <p>2015/12/5 富田林人権フェアに MAP Cafe として参加 2015/12/11 ひきこもり保護者会 2016/1/11 ひきこもり大学 コミュニケーション学科 境界線講座 講師；徳永桂子さん 2016/1/15 ひきこもり保護者会 『あるがママの会』と命名される 2016/1/21 ひきこもり大学 哲学カフェ『愛と対立』 2016/1/31 ひきこもり大学 革細エワークショップ by 文化ボランティアサークルかずばいんど 2016/2/18 ひきこもり大学ゼミ ハラスメント研究 2016/2/19 ひきこもり保護者会-あるがママの会- 2016/2/21 ひろとん（市民活動わくわく広場 in とんだばやし）参加 2016/2/25 ひきこもり大学 哲学カフェ『親と自分』</p>
<p>成果と課題</p>	<p>ひきこもり大学が毎週木曜日と定例化してきた。ひきこもり、マイノリティの自助会的役割を果たし、遠方からの参加者も少なくない。地道に継続していくことで、具体的な居場所役割が、心のよりどころとなる居場所になればいいと思う。境界線講座に学び、そのために互いを尊重できる簡単なルール作りが、必要になってくるのではないか。</p> <p>保護者会「あるがママの会」毎月第3金曜日が定例化してきた。大人食堂をはじめたい。今年の Minority Art Festival を去年の反省を踏まえて、早めにチラシ制作に取り組む。ひきこもり当事者への配慮として、当日ドタキャンありを取り入れるとして、それを受け入れるスタッフも参加者同様でいいのかなど、自分達がしんどくならないようにするには、どういう取り決めやポリシーを持つと良いか、今後、話し合いをどんどん時間をとって重ねていきたい。</p>
<p>今後の目標</p>	<p>プログラムを増やせば生涯学習的な要素も兼ねたフリースクールになるのではないかと思う。講座内容によっては、ひきこもり当事者の講師料も払えるのではないだろうか。</p> <p>IT、イラレ講座, スマホ活用講座（フェスティバルのチラシは、ひっキーやこもら一達の共同作業であった）は、充分可能性がある。</p> <p>次にバトンタッチできるような担い手が育っていくような仕掛けの企画を実行する。</p>

お問い合わせ先：MAP 代表 Swing MASA 〒584-0093 大阪府富田林市本町 12-11
E-Mail : minorityartproject@gmail.com

2015年度人権NPO協働助成金 事業活動報告書

事業名	「よっしゃ！ほっとかへんで」 ～地域の子ども個別支援準備事業～
団体名	NPO 法人西淀川子どもセンター



日時・期間	2015年5月～2016年2月
場所	ねおほ（西淀川子どもセンター拠点）、あおぞらビル、ドーンセンター、姫里ハウス（西淀川区内貸家）、あおぞらイコバ
規模・人数	・研修：参加者のべ162名 ・モデル実習（説明会、振り返り会を含む） 参加者のべ50名（内子どものべ21名）
解決したい課題	虐待通報などで要観察状態の親子、ひとり親家庭の親の就職活動、親の病気や事故、疲労や不和などでの養育困難、といった事例に、身近な場での相談や生活支援が必要である。
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・短期支援事業準備セミナー勉強会および研修会 合計5回実施 5月16日 じんけん楽習塾・大谷真砂子さん「子どもの気持ち」 16名参加 「子どもの話を聴くこと～人権意識に基づいた傾聴のかかわり～」 7月4日 大阪子どもの貧困アクショングループ・徳丸ゆき子さん 43名参加 「シングルマザーとその子どもたち～地域の支援と社会的課題」 10月15日 NPO 法人チャイルド・リソース・センター・宮口智恵さん 28名参加 「子どもの保護現場をめぐる仕組みと課題」 12月10日 特定非営利活動法人フォロ・花井紀子さん 20名参加 「不登校の子どもたちの気持ち、不登校をめぐる社会的課題について」 1月30日 NPO 法人だいじょうぶ・畠山由美さん 55名参加 「地域における子ども支援 ～行政との協働体制をめざすために～」 ・モデル実習（説明会・振り返り会含む） 合計11回実施 6月10日 説明会 9名参加（内子ども5名） 6月24日 3名参加（内子ども1名） 7月12日 3名参加（内子ども1名） 7月22日 3名参加（内子ども1名） 7月31日 5名参加（内子ども2名） 8月19日 3名参加（内子ども1名） 10月19-20日 3名参加（内子ども1名） 12月2-3日 4名参加（内子ども1名） 12月25-26日 3名参加（内子ども1名） 2月10-11日 5名（内子ども2名） 2月17日 振り返り会 9名参加（内子ども5名）

<p>成果と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ研修や学習会には子どもに関わる若者層の参加が多くあり、子ども支援の必要性と、活動の中での気づきとつながりの成果、子どもをめぐる困難の背景を人権の視点で把握することの大切さなどを共に学び、若いボランティアの人権概念を深められる場となった。また、行政からの参加もあり、子どもの現状と支援の仕組みやその課題について共有することができたのは大きな成果であった。今後に向けて、行政職員や市民も一緒に、子ども支援に対する予算配置に着目し考える機会にもなった。 ・モデル実習活動を通じて、生活を共にする時間をもつことで、子ども自身が自分のことや家庭のことを話す場面が多くあった。子どもの気持ちを子ども本人が言語化することをサポートすることができた。 ・子どもたちにとって、自分たちが尊重されているという気持ちを感じられる機会になったのではないかと感じる。その成果として、自分の家での話を自然に話したり、困っていることを伝えてくれたり、家庭環境の変化や家族についての心情を聞かせてくれることにつながったと受けとめている。 ・実際に宿泊実習をすることで、必要なものが見え、準備することができた。 ・掃除、洗濯、入浴時の髪や体の洗い方など、子どもが日常生活の中で学んでいるはずのことを知らないケースが目立った。そのことから、親のほうも日常的にできていないか、子どもに伝える方法がわかっていないか、など親への支援についても考えるきっかけとなった。 ・地域の少年補導委員からの緊急依頼で、一時保護前の子どもを三日間預かった。スタッフ体制に苦労したが、短期宿泊支援のニーズがあることを実感し、保護直前の居場所がない子どもを預かる場がないこともわかった。また、保護されてもすぐに家庭へ戻されることから、保護解除後の、行政のケアが届かない子どもの居場所が必要だと感じる。 ・親の貧困や孤立が子どもの生きにくさにつながっており、体の洗い方や洗髪、洗濯、掃除など「あたりまえの生活」を親から伝えられていない子どもの現状からは、親も教えられておらず、周りに教えてくれる人もなく学ぶ余裕もないということが、想像できた。「あたりまえ」という概念は、環境や育ちや個性によってもそれぞれ違ってくるということも、多様な子どもたちの様子から、あらためて実感した。 ・引き続き宿泊を含む支援の取り組み、設定内容などを今後検討していくために大事な子ども自身の声を、子どもたちの普段の様子を感じながら、受けとることができた。
<p>今後の目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「あたりまえの生活」を「習得すべき社会マナー」の範囲で捉え直して、支援内容に入れて、放課後や週末などに個別支援活動を開始する。その活動を通じて、親とその子どもたちが地域と接点をもち、必要なときには助けを求めてもよい場所があると感じることで、孤立や貧困などの親から子どもへの負の連鎖を防ぐ支援となることを目指して取り組む。 ・また、緊急保護協力対応も想定して、スタッフ体制や環境などを整えていくために、研修を重ね、地域や関係機関との連携を深めていく。 ・地域でできることとして、長期間の見守り支援のあり方も考えていきたい。

お問い合わせ先：NPO 法人西淀川子どもセンター 06-6475-1372

2015年度人権NPO協働助成金 事業活動報告書

事業名	三輪自転車を活用したコミュニティ活性化事業
団体名	特定非営利活動法人 三島コミュニティ・アクションネットワーク



日時・期間	2015年7月1日～2016年3月31日
場所	茨木市立総持寺いのち・愛・ゆめセンター 「総持寺公園」及び周辺地域
規模・人数	約500人

解決したい課題	<p>茨木市三島地域においては、狭小な道が多く、最寄の阪急総持寺駅も、路線バスのバス停もなく、タクシーの往来も少ない地域である。一方、閑静な住宅街ではあるが、新しい住民の方も増加する中、独居高齢者、高齢世帯なども増えてきており、ちょっと買い物に、ちょっと病院に、ちょっと役所にと移動の際には、バスなどはなく、歩いていか、無理をして自転車で行く、そんな高齢者の方も少なくない。</p> <p>そうした地域課題に対して、三輪自転車を活用した送迎サービスなどを始め、自転車を利用した取り組みを通じ、コミュニティの活性化を図り、結果、いわゆる「買い物難民」「福祉や行政サービス控え」「地域からの孤立化」などを防止し、地域の信頼感や安心感の醸成、地域活動への参画などにつなげていくことを目的とする。</p>
---------	--

実施内容	<p>①「改正道路交通法」勉強会～三輪自転車を走るにあたって関係者会議～の実施 (日時:2015年5月29日(金) 18:30~/場所:総持寺いのち・愛・ゆめセンター/参加者:約15名)</p> <p>②自転車あれこれ勉強会第1弾『『自転車を活用した生活支援を考えてみよう』～自転車タクシーが三島にやってくる!～』の開催 (日時:2015年10月25日(日) 13:30~/場所:総持寺いのち・愛・ゆめセンター及び総持寺公園/参加者:約40名)</p> <p>③自転車あれこれ勉強会第2弾「楽しく安全に自転車に乗ろう!みしま・自転車安全教室2015 in 総持寺公園」の開催 (日時:2015年12月12日(土)10:00~/場所:総持寺公園/参加者:約40名)</p> <p>④地域交流事業「みしま・まちの玉手箱」での展示・体験試乗 (日時:2016年2月27日(土) 11:00~15:00/場所:総持寺いのち・愛・ゆめセンター及び総持寺公園/参加者:約400名)</p> <p>⑤総持寺いのち・愛・ゆめセンターでの常設展示 (期間2015年10月25日~/場所:総持寺いのち・愛・ゆめセンター1階ロビー)</p> <p>⑥大阪市立大学・コミュニティマネジメント協会と連携した自転車活用研究・模索 コンパクトな三輪自転車の開発、タンデム自転車の走行など、関係機関と連携して自転車活用の模索を行った。</p>
------	---

<p>成果と課題</p>	<p>当初予定した三輪自転車を購入しての地域移動支援の実現には至らなかったが、長期にレンタルしデモ走行、イベント等での体験、地域施設への常設展示などを行い、地域の関係機関、団体、住民等と三輪自転車を運行するための協議、学習会、イベントなどを行うことで、住民等からの意見や感想、つぶやきが把握でき、それぞれ地域が抱える課題の共有化を図ることができた。(こんなあったらいいわ、近くに頼る人が居ないので病気になったとき助かるな、ちょっと乗るのが怖いな、運転するのはずかしいわ、自転車事故が増えたら困る、道が狭いので渋滞になるのは困る、運転する人がいない、地域通貨のしくみが活用できないかな、購入するのはむちゃくちゃ高いな、珍しいので見に来たわ…)</p> <p>また、地域課題の明確化(必要なときの移動支援や買い物支援、同行支援など)とその解決に向けた機運が醸成できた。さらには、先進的に取り組んでいる団体や研究者、NPOとも連携や情報交換が生まれ、困難な課題に対してのアドバイスや方向性の示唆をいただくことができ、引き続き、コンパクトな三輪自転車の開発や試乗、地域の相互扶助のしくみづくりを検討するきっかけとなった。</p>
<p>今後の目標</p>	<p>引き続き、地域での自転車活用についての研究会や勉強会を重ねる予定。特に、地区福祉委員会の地域社会資源開発ワークショップと連動して、「自転車を活用した生活支援」について検討を深めていく。</p> <p>また、大阪市立大学では、コンパクトな三輪自転車を試作しており、三島地域での試乗や活用を検討している。なお、その際、地域通貨や住民相互の助け合いのしくみを考えるため、追手門学院大学の協力や協働して検討していく予定。</p> <p>自主的な活動として、若者の引きこもり対策やコミュニケーション支援として、法人内に「自転車部」を創設し、タンデム走行や子ども達とのサイクリング、三輪自転車タクシーのデモ走行、自転車安全教室など企画し、実施を予定している。</p>

お問い合わせ先：特定非営利活動法人三島コミュニティ・アクションネットワーク (NPO M-CAN/ミカン)
〒567-0802 大阪府茨木市総持寺駅前町 15-21 TEL:072-624-5050 / Fax:072-624-5944
e-mail:office@m-can.net